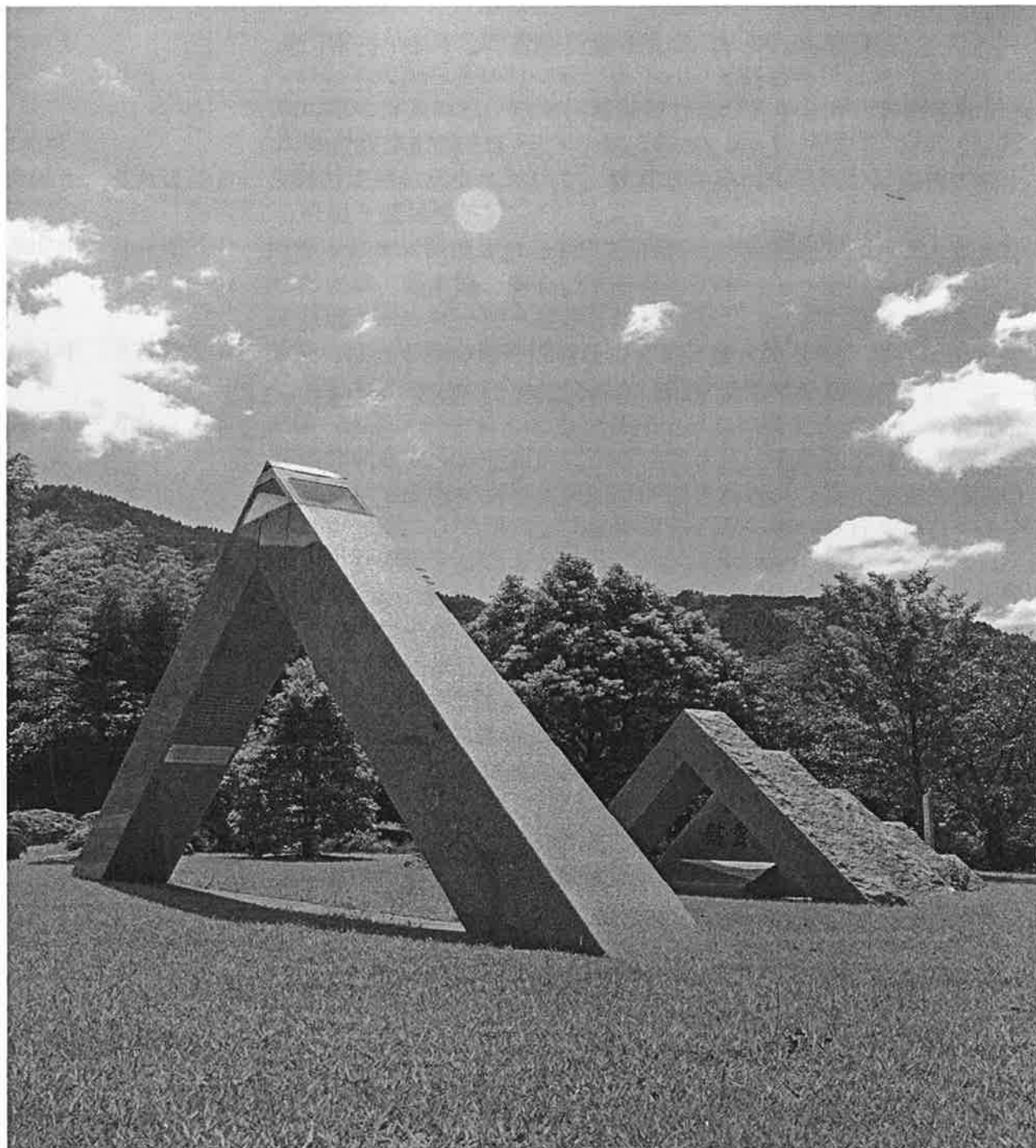


令和 2 年度

八女市平和祈念式典



日時：令和 2 年 8 月 6 日（木）午前 8 時 10 分開式

会場：星のふるさと公園平和の広場

八女市役所 URL:<http://www.city.yame.fukuoka.jp/>

平和祈念式典 次第

1. 開 式

2. 黙とう「サイレン吹鳴」

原爆死没者の慰霊と恒久平和を祈念

3. 式 辞「八女市長 三田村統之」

4. 広島市長メッセージ

5. あいさつ

「福岡県原爆被害者団体協議会会長 中村 国利 氏」

6. 献 花

7. 閉 式

// 平和の火 HISTORY //

1945 年	8 月 6 日	人類史上初めて、原子爆弾が広島に投下される
1945 年	9 月 16 日	山本達雄氏は、叔父彌助が営んでいた金正堂書店跡地から、原爆の残り火をカイロに入れ持ち帰る。以来、23年間自宅の仏壇やカマドで灯し続けられる。
1966 年	8 月 6 日	山本氏が秘かに灯し続けてきた原爆の火が、朝日新聞に掲載され、多くの人が火の存在を知ることとなる。
1968 年	8 月 6 日	火が山本氏から星野村へ受け継がれ、星野村役場に建立された平和の塔に灯される。以来、星野村では、毎年8月6日に平和祈念式典を挙げる。
1988 年	3 月 14 日	星野村定例村議会において、核兵器廃絶恒久平和の村宣言に関する決議を採択する。
1988 年	3 月 24 日	同年5月末に開催される第3回国連軍縮特別総会に向け、採火された火は、原水協を中心とする平和団体により全国をリレーし、開催地ニューヨークへ届けられる。
1990 年	9 月 29 日	星野村は、平和の塔の設置及び管理に関する条例、施行規則を制定し、平和の火の分火及び採火に関する基準を定める。
1991 年	8 月 25 日	原爆の火をテーマにしたカンタータ「この灯を永遠に」が東京在住の作曲家安藤由布樹氏により作曲され、その初公演が久留米市と星野村立星野中学校体育館で開催される。この公演は、「東京この灯を永遠に合唱団」と「星野平和の灯音楽祭実行委員会」の企画により実現することとなる。
1995 年	5 月 8 日	平和の広場に新たな平和の塔を建設し、平和の火を移設し灯される。新たな平和の塔は、彫刻家横沢栄一氏に設計を依頼、福岡県原爆被害者団体協議会の慰霊の塔と一体で建立される。
1999 年	4 月 27 日	長崎県の式見中学校から送られたクスノキの苗木植樹。
2001 年	8 月 6 日	平和祈念式典に広島市長からメッセージが送られ、式典で代読により紹介される。以来、毎年式典に広島市長からメッセージが届けられている。
2003 年	8 月 6 日	平和祈念式典で、星野中学校全校生徒により「この灯を永遠に」が合唱される。以来、星野中学校全校生徒により平和祈念式典で歌い継がれている。
2004 年	5 月 11 日	山本達雄氏永眠。享年 88 歳。
2005 年	8 月 6 日	被爆 60 周年式典で、戦争・原爆詩の朗読会やカンタータ「この灯を永遠に」を作曲された安藤由布樹氏の講演会を開催する。
2010 年	2 月 1 日	星野村は、市町村合併により八女市となる。平和の火も星野村から八女市に引き継がれる。
2015 年	8 月 30 日	広島市長、八女市（星野村）へ訪問。広島市より寄贈された「被爆アオギリ二世」の植樹式が平和の広場にて開催される。

// 平和の塔に関して //

所在地 福岡県八女市星野村 10821 番地 1 星のふるさと公園「平和の広場」

アクセス 九州自動車道八女 I.C から 2.4 km

JR 鹿児島本線羽犬塚駅⇒堀川バス「池の山前バス停」約 60 分

連絡先 八女市役所星野支所まちづくり推進係 0943 (52) 3112 / FAX (52) 3283

「平和の火」分火団体

許可 番号	分火許可日	団体名	郵便番号	住 所
1	昭和63年4月25日	光明山釈迦寺	832-0802	福岡県柳川市三橋町吉開313-2
2	平成元年10月13日	桜丘高等学校	440-0014	愛知県豊橋市南牛川2-1-11
3	平成2年7月30日	上野の森に「広島・長崎の火」を永遠に灯す会	113-0033	東京都文京区本郷3-43-14
4	平成2年7月24日	神奈川県原爆被災者の会	221-0822	神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1丁目8-13 山崎ビル 2F
5	平成4年12月18日	平和の火を灯す会 代表 八面山平和公園	871-0103	大分県中津市三光田口722-6
6	平成6年8月16日	嘉麻市立「平和祈念館」	820-0502	福岡県嘉麻市上臼井767
7	平成7年12月15日	非核平和都市宣言を進める 茅野市民の会	391-0215	長野県茅野市塚原2-6-1 茅野市役所 企画総務部 総務課
8	平成9年3月11日	社会福祉法人 野の花会	897-0002	鹿児島県南さつま市加世田武田1387 7
9	平成13年5月7日	平和の塔の会	630-8102	奈良県奈良市般若寺町221
10	平成15年7月2日	十日町市長 関口 芳史	948-8501	新潟県十日町市千歳町3丁目3番
11	平成17年6月15日	港区長 武井 雅昭	105-8511	東京都港区芝公園1-5-25 港区役所 総務部 人権・男女平等参画担当
12	平成17年9月28日	宇和島ライオンズクラブ	798-0060	愛媛県宇和島市丸之内1-3-20 宇和島バスセンター2F
13	平成19年7月2日	日本放送協会 広島放送局	730-0051	広島県広島市中区大手町2-11-10
14	平成19年7月24日	広島ガス株式会社	734-0007	広島県広島市南区皆実町2-7-1
15	平成27年5月21日	宗教法人 宝徳寺	376-0041	群馬県桐生市川内町五丁目1608番地
16	平成27年6月25日	宗教法人 直指庵	891-1201	鹿児島県鹿児島市岡之原町5060
17	平成29年3月14日	矢作地所株式会社 GCDS JAPAN 株式会社	455-0848	愛知県名古屋市港区金城ふ頭2-7-1
18	令和2年4月17日	NPO法人アースキャラバン	605-0089	京都府京都市東山区元町367-2

令和2年7月現在

「平和の火」採火件数

採火年度	採火団体数及び主な採火先(都道府県)
平成26年度	13団体：韓国、広島、東京、福島、宮城、福岡等
平成27年度	18団体：群馬、鹿児島、京都、広島、宮城、東京、兵庫、福岡等
平成28年度	19団体：東京、広島、宮城、兵庫、長崎、福岡等
平成29年度	15団体：東京、広島、奈良、長崎、佐賀、福岡等
平成30年度	15団体：東京、京都、奈良、佐賀、福岡等
令和元年度	9団体：神奈川、広島、兵庫、佐賀、福岡等

平和の火の「採火」・「分火」とは

採火：平和の塔の火を一時的に他の燃焼しようとするもの及び用具に点火する行為をいう。

分火：平和の塔の火を採火し、事後永続して燃焼させることを目的とする行為をいう。

平和の塔の由来

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分、広島に人類史上初めて原子爆弾が投下されました。広島を焦土と化したその火が、広島から遠く離れたこの地に、今もなお燃え続けています。

八女市星野村（旧星野村）で生まれ育った山本達雄氏は、1944年（昭和19年）12月に3度目の召集を受け、豊田郡大乘村の暁2940部隊で任務に就いていました。

1945年8月6日、山本氏は、いつもの通り、広島の宇品にあった暁部隊司令部に向かうため、汽車に乗っていました。そして、もうすぐ広島駅という所で、突然車中をイナズマ（稲妻）が走ったかと思った瞬間、乗客は床に叩きつけられ、大地を揺るがす爆発音とともに汽車が止まりました。無事を確認した山本氏は、軍人としての使命感から、汽車を降り司令部に向かって走り出しました。また同時に山本氏の脳裏には、市内で金正堂書店を営む叔父・山本彌助の安否が気掛かりでした。しかし、市内に近づくにつれて目の当たりにするのは、燃えさかる炎の中、男女の区別もつかないほど焼けただれ、もがき苦しむ人々の群れと、断末魔のうめき声。その惨状は、この世のものとは思えない地獄絵だったといえます。

8月15日終戦を迎え、山本氏は、これまで父親代わりに自分を育ててかわいがってくれた叔父の行方を必死になって探しましたが、どうしても見つかることができませんでした。

復員命令が出た山本氏は、一面焼け野が原となった広島で、何の手がかりも見出せないまま、最後の別れに金正堂書店の焼け跡に行きました。そこで、書店の地下壕でくすぶり続けていた火を見つけ、せめて叔父の遺骨代わりにと、出征するときに祖母が持たせてくれたカイロに移しました。9月16日のことでした。

こうして広島原爆の火は、奇跡的に350km離れた八女市星野村へと運ばれることとなりました。以来、この火は、遺骨すら見つかることができなかった叔父・彌助と、目の当たりにした多くの原爆犠牲者の供養と怨念の証として、山本家の仏壇に灯され、火を絶やさないために火鉢やカマドにも移し、人知れず23年間灯し続けられました。

戦争のない平和な世界への願い、しかし、原子爆弾に対するどうしようもない憤り。

息絶える人々に託された憎しみと報復への約束。23年の歳月は、山本氏にとって言葉では到底表現できないほどの苦しい心の葛藤の日々でもありました。

1968年（昭和43年）、当時の星野村は、この火を全村民の平和への願いとして受け継ぎ、同年8月6日、旧星野村役場に建立された平和の塔に灯され、以来、毎年広島に原爆が投下された8月6日午前8時15分、全村民をあげて平和祈念式典を開催してきました。

1988年（昭和63年）5月、ニューヨークで開催された第3回国連軍縮特別総会に「平和の火」として届けられ、また全国各地に採火され、平和のシンボルとして灯されました。その後「平和の火」は、被爆50周年を迎えた1995年に整備された平和の広場に、福岡県原爆死没者慰霊の碑と共に新たに建立された平和の塔に灯されました。

2010年（平成22年）、合併と伴に八女市がこの火を引き継ぎ、毎年、原子爆弾が投下された8月6日に平和祈念式典を開催しています。

この火は、2004年（平成16年）5月11日に永眠された故山本達雄氏の御霊と共に、争いのない平和な世界を願って、これからも永遠に灯し続けます。



広島に投下された原爆の火を持ち帰られた

故山本達雄氏



1995 年まで灯し続けた平和の塔

福岡県原爆被害者団体協議会原爆死没者慰霊の碑

1995年に整備された平和の塔は、福岡県原爆被害者団体協議会の「慰霊の碑」と共に建立されました。

原爆死没者慰霊の碑【碑文】

1945年（昭和20年）8月6日・9日、広島・長崎に原子爆弾が投下され、2つの都市は一瞬のうちに消滅しました。福岡県民でこの原子爆弾により現地で死没した人、帰郷後原爆症で死没した人、被爆後他県から福岡県に移住して死没した人、さらに身許不明の犠牲者として遺骨を現地に留める人、遺骨もないまま広島・長崎の地下に今もむなしく埋もれる人など未曾有の痛苦のうちに世を去った多数の福岡県の被爆者の霊に対し深い弔意を捧げます。福岡県内には、広島・長崎に次いで1万有余人の被爆者が住んでいます。そして、1995年（平成7年）被爆50周年を迎え、福岡県原爆被害者の長年の願いであった原爆死没者慰霊碑が星野村のこの地に建設されました。私たちは村のこのご厚意に感謝するとともに、建設にあたりご援助いただいた国・県をはじめ、県民各位のご援助に厚くお礼申しあげます。御霊よ安らかに眠ってください。



1995年3月 福岡県原爆被害者団体協議会

非核・恒久平和都市宣言に関する決議

恒久平和は、人類共通の念願であり国際的な核軍備拡大競争は新たな核戦争の危険を増大させている。

我が国は、核被爆国として、また平和憲法の精神からも再び広島・長崎の惨禍を絶対に繰り返させてはならない。

われわれは、命の尊厳を深く認識し、非核三原則が完全実施されることを願い核兵器廃絶を全世界に訴えらるとともにこの人類普遍の大義に向かって不断の努力を続けることが肝要である。

よって八女市は平和への誓いを新たに決意し、ここに「非核・恒久平和都市」を宣言する。

以上決議する

昭和58年12月21日

八女市議会